No 46

女性委員会

建築士会

全道大会「女性建築士の集い」

2010.10. 3（日）

道東Ｂ（斜里支部）**川勝美由紀**

大会翌日「女性建築士の集い」が行われました。参加者約30名がそれぞれ増毛に集合。H12～16年国稀酒造、建築プロジェクトマネジャーとして携われた早川敏之氏による「増毛のまちづくりと国稀酒造」委員長が時間を気にされてるのを押しての、熱い講演と丁寧な説明見学会でした。

オーベルジュましけでのおいしい昼食後、東海大学旭川校教授・川島洋一氏より増毛の歴史的建造物の紹介がありました。厳島神社では、神主さんが説明して下さり、神殿の奥にまで案内していただき、こんな近くまで！と神聖な気持ちになると共に、素晴らしい魂のこもった彫刻・絵馬などに出合う事ができました。皆さんご利益はあったでしょうか？

旧商家丸一本間家ではいつもは入れない部屋も特別に見せていただき感激しました。増毛は初めての町だったので新鮮でした。それでいて懐かしさもあり、当時の活気満ちた生活が想像されました。

日本最北の酒造「国稀」

町並み散策後は、お腹も心も満たされましたね。（試飲して買ったお酒、留萌・増毛の味は一際でした）大会後、札幌に戻る途中、雨が降り出し（天気予報が当たり）別れを惜しまれました。

女性建築士の集いは大奥の集いではありません。参加者が又来年も参加したくなるような気配りのある雰囲気があります。そんな気持ちが一つにまとまった温かい気がしました。今回の大会・集いの為に準備をしてくださった方々、講師の方、参加していただいた方々、お世話になり、本当にありがとうございました！皆さんお疲れさまでした！

住教育セミナー in 江別2010

札幌支部　**新海　直美**

平成22年７月30日(金)、北海道江別高等学校にて、高校の家庭科を受け持つ先生を対象にしたセミナーを開催しました。2006年に女性委員会で企画・発行された「子どもをはぐくむ住まいづくり」がきっかけで始まったこのセミナーも、今年で３回目。

１年目は、自分が子供だった頃の住まいを思い返して、子供にとっての住まいとは何かを考えました。２年目は、世帯向けの住まいのプランニングをしました。そして、３年目の今年は、学生が社会人となり一人暮らしをするという想定で、マンションの一室をプランニングするセミナーとなりました。

道央支部の工藤美智子さんが、住まいについての基礎知識を講演された後、グループに分かれてワークショップをしました。住まいについて考え、手を動かしている時、皆さん楽しく、真剣な面持ちで取り組まれています。

今回は、前回のセミナーを現場で実践してみたという事例も伺うことができたのですが、学生の住まいの知識が想像以上に少なく、作成したプランを見て驚くものが結構あったとのこと。学生の家庭環境もそれぞれである中、教えてゆくことの難しさもあるとの声も聞かれました。

住まいについて考えることは、生きていく上でとても重要で、そして楽しいことであるという実感があるにも関わらず、どうやって「住教育」を教えていったら良いのか分からない…という先生方のジレンマが、毎回感じられます。建築士は、もっと教育の場に働きかけてゆく必要があるのではないかと思います。

全道大会に参加して

札幌支部　**種田　若菜**

全道大会にはじめて参加させていただきました。お天気が気になりましたが、当日は良いお天気で次の日の「女性建築士のつどい」の増毛町見学会でも、なんとか雨に降られることなく海風に吹かれながら楽しく増毛の街を歩くことが出来ました。まさしく今回のサブテーマでもあります「～風のみえるまち～」を体感したのです。お天気といえば、前回の留萌大会が嵐のため、大会自体が開催不能となってしまった「まぼろしの留萌大会」であったことを大会に出席してから知り、本当に驚き、式典での講演会のテーマが「８月26日その日の風」というお天気の話であることに納得いたしました。しかも、日常なにげなく聞いていた天気予報の奥深さを知り、天気はすべての社会状況に関わるわけですから、建築の分野にも多大な影響があることを再認識し、人間の力の微力なことを思い知らされたわけです。が、今回の留萌大会ではマンパワーにとても感動いたしました。出席したＡ分科会では「住まいと素材」～自然の恵みを暮らしの中へ～というテーマで主に道産の自然素材について素材別に６つにグループ分けして各素材についての意見交換をしました。どのテーブルも満席の中活発な意見交換がなされ、道産の自然素材には熱い思いがあるようで、設計者の立場から施工者の立場からそして住まいての立場からと新しい情報交換の場として機能していたと思います。分科会の係りの方の配慮と参加者の方々の建築に対する思いでとても良い分科会でした。また、式典・懇親会では子供太鼓やサルサバンドで大会を和ませていただいたりと、留萌大会のスタッフの方々の前回の大会の分まで盛り上げようという熱い思いと参加者に対する思いやりに満ちていてほんとうに感激しました。このようにマンパワーの結晶が新しい出会いや新しい発見を導き、感動をあたえてくれるのだと感じます。初めて全道大会に出席したのですが、同業種間のコミュニケーションの重要性、またその先に社会に貢献する責任ある団体であり続ける意義を再認識し、建築士として大会に参加したことを誇らしく思いました。次回の大会が楽しみです。

全国大会　佐賀大会に参加して

小樽支部　**本間　恵美**

10月22日開催の佐賀大会に参加しました。快晴の佐賀は、北海道から行った私にとっては、まるで真夏のような暑さでした。

初めての佐賀空港は、有明海を眺めながらの着陸で、海苔の養殖が遠くどこまでも広がり、人間の力ってすごいなと感動しました。また、空港周辺は、黄金色に実った稲穂が続き、「九州の米どころ佐賀」も実感しました。

大会当日は、連合会女性委員会が行う「クイズ知ってるつもり」で司会を担当しました。今年のクイズは、九州ブロックの方々が、各県それぞれの風土や文化がはぐくんだ「暮らしと住まいの習いとしつらい」をテーマに、問題を作成してくれました。その土地ならではの住まいかたの工夫があり、また、地域がら、中国や台湾などの影響も受けている文化など、興味深いものがたくさんありました。

福岡県には、1200年守られている「法火」と呼ばれるかまどの火が有るそうです。歴史の長さに驚きです。「林叢」、これはなんと読むと思いますか？これは「ひゃーし」と読みます。長崎県の強風から屋敷を守るための高生垣のことです。また、沖縄県の問題に、「天官賜福紫微鑾駕」というのがありました。これは「てんかんふくをたまわるしびらんが」と読むそうです。棟上の時にとり付ける棟札のことです。言葉も、初めて聴くものが多く、北と南の文化の違いが面白く、楽しめました。

今回は、各県の担当者が自県の問題と回答を読み上げました。その中、大分県と鹿児島県は青年委員が担当してくれました。青年の参加は初めてではないでしょうか？とても良かったです。

会場の一番前の席に、高校生らしき制服姿の男女6～7名がいました。建築の生徒が先生に言われて参加してくれたのでしょうか。何問かのクイズに正解すると景品がもらえるのですが、彼らはなかなか正解せず、答えを教えてあげたいくらいでした。いつか、彼らも建築士になってくれるのでしょう。「その時には必ず、建築士会に入ってね。」と念を送ったのですが、ちゃんと届いたかな？

第8回お菓子の家づくりコンテスト

道北ブロック　**赤木　希好**

この季節恒例のお菓子の家づくりコンテストが、今年もイオンショッピングセンターで行われました。設計図となるイラストはどれもユニークで、仕上がりが楽しみなものばかり。ケーキ、かぼちゃ、ピアノなどの様々な外観。エクステリアもしっかり計画されており、既成概念にとらわれない柔軟な発想は見習わなくてはならないところです。

その形を実現するためにパティシエさんも大活躍で、材料のパイシートを丸・三角など希望の形にカットし、きれいな色のチョコレートを湯煎して接着剤にしてくれます。プロの仕事を間近で見られる良い機会でもあります。

初参加チームは、取り掛かりこそ困っていましたが、少しのアドバイスで次にやるべきことは分かったみたい。驚いたのは、事前に練習で作ってみたという熱心なチームもあったことです。限られた材料なので、急な計画変更にも対応しつつ、開始から約3時間、集中力を切らさなかったみんなが完成させたお菓子の家は、どれも誇らしいものでした。